

# 平成27年度学校自己評価システムシート (熊谷市立大幡中学校)

目指す学校像	高い志を持ち、夢に向かって本気で取り組む生徒 ○進んで学ぶ生徒 ○思いやりのある生徒 ○たくましい生徒
--------	--

重点目標	1 基礎的・基本的な力を確かに身に付け、主体的に学習に取り組む生徒 2 互いに認め合い、励まし合い、元気なあいさつをかわせる生徒 3 高い目標を持って、何事にも本気で取り組み、汗をかく生徒
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	事務局(教職員)	2名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 2 6 日 現 在 )	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	○全国学力学習状況調査の結果から、基礎基本を身につけるために授業力の向上と、家庭学習の充実を図る必要があることが分かった。	○言語活動を重視した授業の実践 ○家庭学習の充実  ○テレビ・パソコンの時間を減らす ○読書時間の向上	・指導力向上のため、公開授業を実践する。 ・家庭学習チェックシートを活用し、家庭学習の時間を増やす。 ・3減運動を推進する。  ・朝読書を充実させ、読書量の向上を図る。	・各教師が年間2回以上の公開授業を行う。 ・50%以上の生徒が、家庭学習2時間以上実施できる。 ・テレビ・パソコン等の時間が1時間以内の生徒を40%以上にする。 ・昨年度よりも読書時間を増やす生徒の割合を、30%以上にする。	・全職員が2回以上の公開授業を行うことができた。 ・学習アンケートの結果から、2時間以上学習している生徒は47%であった。 ・3減運動アンケートの結果から1時間以内の生徒は40.1%であった。 ・学習アンケートの結果から、ゲームを減らし読書ができた生徒は59.5%から61.8%であった。	B 課題 1 指導方法の工夫 2 家庭学習の定着 3 補充学習の充実 改善策 ○学び合い学習を深化・充実させるための研修会の実施 ○「定期テスト前の計画表の作成と実施内容の記録」を継続と、ノートの質の向上 ○低位の生徒が自信を付けるよう、学年ごとの補充学習計画と実践
2	○清掃においては、だんだんと取り組む姿勢が良くなってきた。 ○朝のあいさつ運動では、次第に大きな声であいさつができるようになってきたが、生活安全委員や教師からの声かけがないとあいさつができないことが多い。 ○地域の方との交流ができてきたが、積極的に取り組むことができていない。	○清掃への積極的な取り組み ○あいさつ運動の充実  ○校区連絡会との連携  ○特別支援教育の推進	・朝のボランティア清掃を継続して行う。 ・「朝のあいさつ運動」を充実させる。 ・大幡校区連絡会による「植え付け」「収穫祭」を充実させる。 ・ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進を行う。	・各部活動交代で、毎日行う。  ・生活委員、生徒会による月1回以上の取り組みを行う。 ・年2回以上の活動を行う。  ・大幡小中特別支援学級の交流会を年2回以上実施する。	・部活動による朝清掃は、過半数の部活動がしっかりと行っていた。 ・本年度はあいさつ運動が毎月2回実施できた。 ・夏の草取り、植え付け、収穫祭と3回の実施ができた。 ・市内の交流会2回と、大幡小中交流会1回が実施できた。	A 課題 1 コミュニケーション能力の向上 2 親和的人間関係の向上 改善策 ○ソーシャルスキルトレーニングの計画的実施 ○学年委員会を積極的に活用した、人間関係づくりの充実 ○学校行事の積極的な活用による人間関係づくり
3	○体育の授業や部活動において、真剣に取り組む様子がうかがえるが、新体力テストの結果がもう一步であった。 ○HQCシートの取り組みから、不規則な生活をしている生徒がいることがわかった。 ○防災教育の推進ができてきたが、小中学校の連携が不十分である。	○体力向上の推進 ○健康教育の取組  ○防災教育の推進	・新体力テストを年2回実施する。 ・HQCシートの取組を通して、課題を明確にする。 ・小中合同の地震による避難訓練を実施する。	・総合評価(C判定以上)=85%達成 ・朝ご飯をしっかりと食べる生徒を95%以上にする。 ・避難訓練が実施できたか。	・C判定以上の生徒は81.8%であった。また、県平均を上回る種目が少なかった。 ・朝ご飯を食べる生徒は全体の91.5%であった。 ・小中合同避難訓練が実施できたが、保護者との連携という点で課題が残った。	B 課題 1 部活動の充実 2 HQCシートの活用 3 小中合同避難訓練の向上 改善策 ○部活動ごとの目標値の決定による、日々の運動目的の明確化 ○朝ご飯を食べる生徒を増やすための、家庭への支援 ○早い時期での避難訓練実施

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成28年 3月 3日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や教員のアンケート結果から、言語活動を重視した学習の取り組みが継続されていることがわかった。さらに良い成果になるよう、授業がわからないという生徒へ指導を続けてほしい。</li> <li>・授業参観で基礎基本の定着と表現力の充実がうかがえた。</li> <li>・3減運動の取り組みはさらなる充実が求められる。そのためには、保護者への啓発が必要である。</li> <li>・具体的に評価を進められるよう、学校評価アンケートの項目について改善を考えた方がよい。</li> <li>・校内がきれいに保たれていると感じた。毎日の清掃や部活動の生徒による清掃の成果が出ていると感じた。</li> <li>・校内でのあいさつはよくできていると感じるが、校外では半数の生徒しかあいさつが交わせないという現状がある。</li> <li>・体験学習を通し、子ども同士のつながりが感じられた。また、思いやりの多い子どもも多いと感じた。</li> <li>・保育園での活動などで、子どもたちの気持ちや清掃への取り組み姿勢など成長が感じられる。</li> <li>・体育的行事や部活動の取り組みを通して、子どもたちの自己評価結果が向上していると感じた。</li> <li>・朝ご飯を毎朝食べる生徒の数がまだ十分とはいえない。保幼小中の連携を通し、食育の指導がさらに進められると良いと感じた。</li> <li>・学校の努力の様子が保護者にも伝わり、生徒が育成できていると感じた。</li> </ul>	